

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-(1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童, 教職員, 保護者 肯定的回答 85%以上</p>	<p>○ねらいや学習内容, 児童の実態等に応じてペア学習やグループ学習を取り入れ, 学び合いの充実を図る。</p> <p>・目指す児童の姿を想定して中心発問を設定するとともに, 児童の考えを広げ深めるようコーディネートする。</p>	B	<p>【達成状況】 児童 91.3 教職員 89.5 保護者 78.7 ・児童, 教職員が目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ○ねらいや学習内容, 児童の実態等に応じてペア学習やグループ学習を取り入れ, 学び合いの充実を図る。 ・目指す児童の姿を想定した明確な課題や中心発問を設定し, 達成感もてるような授業づくりを目指す。</p>
1-(2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A2 児童は, 思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童, 教職員, 保護者 地域住民 肯定的回答 85%以上</p>	<p>・道徳科や学級活動において, 思いやりの心の大切さや親切な行動について考え, 話し合う活動を行う。</p> <p>・なかよし班活動等の異学年交流活動を通し, 互いを思いやる気持ちを育む。</p> <p>・各教育活動において, 時と場, 相手の気持ちに配慮した言葉遣いを指導する。</p>	B	<p>【達成状況】 児童 90.7 教職員 78.9 保護者 94.4 地域住民 100 ・児童, 保護者, 地域住民が目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・各教育活動を通して, 思いやりの心の大切さや親切な行動について考え, 話し合う活動を行う。 ・各教育活動において, 時と場, 相手の気持ちに配慮した言葉遣いを指導する。</p>
	<p>A3 児童は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童, 教職員, 保護者 肯定的回答 80%以上</p>	<p>○児童会活動や委員会活動, 学校行事において継続的に努力している児童へ「平北レンジャーカード」やシールを渡すなどにより, 多くの教職員が児童の実践をきめ細かく見取り, 認め励ます指導を推進する。</p> <p>・各種検定カードや「宮・未来キャリアパスポート」の振り返りカードを通し, 保護者から児童の頑張りを称賛してもらうことにより, 家庭においても児童の達成感や自己肯定感を高められるようにする。</p>	B	<p>【達成状況】 児童 85.3 教職員 84.2 保護者 71.1 ・児童, 教職員が目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ○「平北レンジャー」の取組を活用し, 各教育活動において継続的に努力している児童の実践をきめ細かく見取り, 認め励ます指導を推進する。 ・児童が身近な目標を持って学習や学校行事に取り組むことができるよう, 目標を立てる時間を設ける。</p>

<p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童、教職員、保護者、地域住民 肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が健康や安全に気を付けて生活できるよう、時と場に応じた過ごし方のルールやマナーについて各学級で話し合い、振り返りを行うことで意識の高揚を図る。 ・各教育活動を通じた児童への安全指導や委員会活動、校内掲示により、施設の安全な利用について意識の高揚を図る。 ・食育指導や保健教育、避難訓練の取組に関する情報を、各種便りやホームページにより発信し、家庭や地域への啓発を行う。 ・一斉下校指導の際に登下校の様子についての地域の声を伝えながら、児童が安全に登下校できるよう指導する。また、保護者や地域住民から危険箇所の情報を収集し、共有しながら、学校・家庭・地域が連携・協力して安全な登下校に向けた取組を推進する。 ・交通安全週間等の機会を活用し、各学級において放課後の過ごし方や交通安全について指導する。 	<p>【達成状況】 児童 90.0 教職員 84.2 保護者 88.5 地域住民 100</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童、保護者、地域住民が目標値を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が健康や安全に気を付けて生活できるよう、時と場に応じた過ごし方について繰り返し指導していく。 ・各教育活動を通じた児童への安全指導や委員会活動、校内掲示などの活動を継続し、施設の安全な利用について意識の高揚を図る。 ・食育指導や保健教育、避難訓練の取組に関する情報を、各種たよりやホームページにより発信していく。 ・下校全体指導の時間を活用し、地域の声を伝えながら、児童が安全に登下校できるよう指導する。
<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童、教職員 肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事や各種検定、めあてに対する取組を振り返る機会を設定し、自分自身のよさや成長を実感できるよう指導を工夫する。 ○学級での活動や児童会活動等において主体的に取り組んでいる様子や協力している姿を見取り、教師が認め、励ますとともに児童同士が認め合う場を設け、自己肯定感を高められるようにする。 ○ホームページや学校だより等を活用し、児童の活動の様子や活躍を積極的に発信することにより、家庭や地域と連携して児童を認め励ますことができるようにする。 	<p>【達成状況】 児童 88.7 教職員 89.5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全て目標値を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習や行事等において、めあてに対する取組を振り返る機会を設定したり、主体的に取り組んでいる様子や協力している姿を見取って称賛したりし、自分自身のよさや成長を実感できるよう指導を工夫する。 ○ホームページや学校だより等を活用し、児童の活動の様子や活躍を積極的に発信することにより、家庭や地域と連携して児童を認め励ますことができるようにする。
<p>2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童、教職員 肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTと連携を図りながら、授業展開や教材を工夫するとともに英語によるコミュニケーション活動の一層の充実を図り、児童が英語に慣れ親しむことができるようにする。 ・VTによる読み聞かせやALTとの会食（給食）など、授業以外での時間に英語でのコミュニケーションを取る機会を設け、児童の英語への関心を高められるようにする。 	<p>【達成状況】 児童 76.7 教職員 100</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が目標値を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALTと連携を図りながら、授業展開や教材を工夫するとともに英語によるコミュニケーション活動の一層の充実を図り、児童が英語に慣れ親しむことができるようにする。 ・VTによる読み聞かせやALTとの会食（給食）など、授業以外での時間に英語でのコミュニケーションを取る機会を設け、児童の英語への関心を高められるようにする。

	<p>A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童、教職員、保護者 肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平石地区や宇都宮市についての学習の際に、出前授業や校外学習などの体験学習の充実を図り、実感を伴って学ぶことができるようにする。 宇都宮に関する民話を校内放送したり学習資料を掲示したりすることで、児童の宇都宮に対する関心を高めることができるようにする。 ホームページなどを活用して「宇都宮学」等における学習の様子を保護者へ発信し、家庭における対話や体験につなげられるようにする。 	<p>【達成状況】 児童 78.7 教職員 84.2 保護者 70.3 ・教職員が目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・平石地区や宇都宮市についての学習の際に、出前授業や校外学習などの体験学習の充実を図り、実感を伴って学ぶことができるようにする。 ・創立周年行事との関連を図り、平石地区の成り立ちなど、地域の歴史やよさへの関心を高める学習を設定するとともに、家庭における対話につなげられるようにする。</p>
<p>2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進</p>	<p>A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童、教職員、保護者 肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習のねらい達成に向け、1人1台端末をはじめとするデジタル機器の効果的な活用を図る。 学校図書館司書と連携しながら、図書を活用した指導の充実を図る。 ホームページ等により、児童がデジタル機器や図書を活用して学習に取り組む様子を保護者に向けて発信する。 	<p>【達成状況】 児童 85.3 教職員 100 保護者 80.5 ・教職員が目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・学習のねらい達成に向け、1人1台端末をはじめとするデジタル機器の効果的な活用を図る。 ・学校図書館司書と連携しながら、新聞や図書資料を活用した指導の充実を図る。 ・児童がデジタル機器や図書を活用して学習に取り組む様子を保護者に向けて発信する。</p>
<p>2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進</p>	<p>A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童、教職員 肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活科における植物の栽培や、総合的な学習の時間における環境問題に関する学習を通し、SDGsに関する知識を高めるとともに、実践力を養う。 「持続可能な社会」についての関心が高まるよう、委員会活動において、リサイクルの推進や緑化運動を実施したり、それらの活動をステッカーやシールなどで全児童に紹介したりする。 	<p>【達成状況】 児童 87.3 教職員 68.4 ・全て目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・生活科における植物の栽培や、総合的な学習の時間における環境問題に関する学習を例とし、SDGsなどに関する知識を広げていく。 ・各学級において資料などを活用し、「持続可能な社会」という言葉について話題を提供したり、実践したりすることで、児童と教職員が互いにイメージが共有できるようにする。</p>
<p>3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A 10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員 肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 特別な支援を必要とする児童の情報を全職員で共有し、個に応じた支援の充実に向けた組織的体制を構築する。 教職員が日頃から児童に関する情報共有を行い、支援を必要とする児童への支援の方法や困り感などについて理解を深められるようにする。 必要に応じて外部機関との連携を図る。 	<p>【達成状況】 教職員 100 ・目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・特別な支援を必要とする児童の情報を全職員で共有し、個に応じた支援の充実に向けた組織的体制を継続する。 ・教職員が、支援を必要とする児童への対応の方法や困り感などについて理解を深められるようにする。</p>

<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童、教職員、保護者、地域住民 肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめゼロ強調月間」に、道徳科においていじめについて考える授業を実施する。 ・いじめアンケートの実施、標語、名札の着用等を通じて「いじめを許さない」という意識の向上を図る。 ・児童会の平北レンジャーを活用することにより、いじめゼロ運動を児童の主体性を生かして展開する。 ・各種たよりや学級懇談会、ホームページ等でいじめに対する学校や児童の取組を積極的に発信していく。 	<p>【達成状況】 児童 95.3 教職員 100 保護者 76.7 地域住民 100</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童、教職員、地域住民が目標値を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめゼロ強調月間」において、いじめを題材とした授業やいじめアンケート、標語、名札の着用などの活動を通じて「いじめを許さない」という意識の向上を図る。 ・児童会や平北レンジャーを活用したいじめゼロ運動を実施するとともに、学級活動等において、児童が一人一人の良さを認め合い、互いに大切にする態度を育むことをねらいとした活動を工夫する。 ・各種たよりや学級懇談会、ホームページ等でいじめに対する学校や児童の取組を積極的に発信していく。
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童、教職員、保護者 肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ等対策委員会（不登校対策含）やケース会議等で関係職員が児童の様子についての共通理解を図り、組織的な対応策を検討する。 ・SCM及び特別支援コーディネーターをはじめ、関係機関等の様々な外部組織と連携した対応を進め、より多くの意見をもとに解決に向けた取組を進める。 ・必要に応じた家庭訪問などにより、保護者と情報を共有し、連携を図りながら対応する。 ・学校生活における振り返りの場をもつことで、児童の活躍や頑張りを互いに認め合えるようにし、児童にとって居がいのある学校、学級となるようにする。 	<p>【達成状況】 児童 92.0 教職員 100 保護者 87.0</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童、教職員が目標値を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ等対策委員会（不登校対策含）やケース会議などで関係職員が児童の様子についての共通理解を図り、組織的な対応策を検討する。 ・関係機関と連携した対応を進め、より多くの意見をもとに解決に向けた取組を進める。 ・日頃から保護者と情報を共有し、連携を図りながら対応していく。 ・家庭において、児童と学校での出来事などについて対話する機会をもてるよう、保護者へ働きかける。 ・学校生活を振り返る場を設定し、児童の活躍や頑張りを互いに認め合えるような雰囲気醸成する。
<p>3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p> <p>3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童、教職員、保護者、地域住民 肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会活動や学校行事等において、児童が主体的に活動し、活躍できる場を積極的に設定する。 ・ホームページや各種たより等を活用し、学校の活動の様子を発信するとともに、学級懇談会等において児童の様子を伝えることで家庭と情報を共有しながら支援していく。 ・定期的に共遊の時間やなかよし班活動などの機会をもつことで、仲間意識を高めたり、異学年の交流を深めたりする。 	<p>【達成状況】 児童 93.3 教職員 100 保護者 79.7 地域住民 100</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童、教職員、地域住民が目標値を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童会活動や学校行事等において、児童が主体的に活動し、活躍できる場を設定する。 ・ホームページや各種たより等を活用し、学校の活動の様子を発信するとともに、懇談会等において児童の様子を伝えることで家庭と情報を共有しながら支援していく。 ・定期的に共遊の時間やなかよし班活動などの機会をもつことで、仲間意識を高めたり、異学年の交流を深めたりする。

<p>4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童、教職員、保護者 肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてをはっきり示し、じっくり考え、すっきり解決する学習の流れで授業を展開することで、児童が見通しをもち、主体的に学習に取り組めるようにする。 ・算数における習熟度別学習や少人数学習の実施、かがやきルームの活用など、個に応じた指導の充実を図ることで基礎・基本の定着を図る。 ・学力調査等の結果を分析し、児童の実態から見える課題を明らかにした上で、学校課題との関連に配慮した取組を検討し、学校全体で指導改善に取り組む。 ・授業参観や学級懇談会等において、児童の学びの状況について保護者へ具体的に説明する。 	<p>【達成状況】 児童 93.3 教職員 100 保護者 73.8</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童、教職員が目標値を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあてをはっきり示し、じっくり考え、すっきり解決する授業を展開し、児童が見通しをもち、主体的に学習に取り組めるようにする。 ・算数における習熟度別学習や少人数学習の実施、かがやきルームの活用により児童一人一人の状況に応じたきめ細かな指導の充実を図る。 ・学力調査等の結果を分析し、児童の実態から見える課題を明らかにした上で、個に応じた手立てを講じ、基礎・基本の定着を図る。 ・学校課題との関連に配慮した取組を検討し、学校全体で指導改善に取り組む。
<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員 肯定的回答 95%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の多様な専門性を生かした指導・支援体制を整えていく。 ・学年を超えた情報交換などを通して職員が相互に学び合う取組の一層の充実を図る。 ・学習資料のデータや現物の蓄積及び整理と引継ぎを確実にし、業務の効率化を図る。 	<p>【達成状況】 教職員 94.7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を下回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の多様な専門性を生かした指導・支援体制を整えていく。 ・出前授業等の実施計画を共有することで役割を明確にし、協力して運営に当たることができるようにする。 ・学習資料のデータや現物の蓄積及び整理と引継ぎを確実にし、業務の効率化を図る。
<p>4- (3) 学校における 働き方改 革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員 肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事の反省を累積して分析したり、教育課程の見直しをしたりすることで、学校運営や行事の実施方法の改善を図る。 ・見通しをもって計画的に職務を遂行することともに、役割を明確化し、組織的に取り組むことで、業務の効率化を図る。 ・資料の電子化や電子掲示板を活用した教職員間の情報共有など、業務の効率化に向けたデジタル機器の活用を工夫する。 ・リフレッシュウィークを着実に実施するため、リフレッシュデーになっている職員名を職員室に掲示したり、打合せ等で呼びかけたりするなどし、職員が勤務時間を意識して働けるよう工夫する。 	<p>【達成状況】 教職員 84.2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を下回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各行事の反省を累積して分析したり、教育課程の見直しをしたりすることで、学校運営や行事の実施方法の改善を図る。 ・見通しをもって計画的に職務を遂行することともに、役割を明確化し、組織的に取り組むことで、業務の効率化を図る。 ・リフレッシュデーの徹底を図る。

<p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ⇒児童，教職員，保護者，地域住民 肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学校園での児童，生徒間の交流を図るとともに，親学講座など地域学校園の取組や活動内容を各種たよりやホームページ等で発信する。 ・運動会の中学生によるボランティアや小中学生がともに行うあいさつ運動，中学校教員による乗り入れ授業，6年生の中学校訪問など交流活動の充実を図る。 	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童 92.3 教職員 84.2 保護者 81.7 地域住民 100 ・全て目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・地域学校園での児童，生徒間の交流を図るとともに，親学講座など地域学校園の取組や活動内容を各種たよりやホームページ等で発信する。</p> <p>・運動会の中学生によるボランティアや小中学生がともに行うあいさつ運動，中学校教員による乗り入れ授業，6年生の中学校訪問などの交流活動を継続して実施する。</p>
<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は，家庭・地域・企業等と連携・協力して，教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 ⇒児童，教職員，保護者，地域住民 肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援ボランティア，農園ボランティアなど地域やPTAと連携した取組をさらに推進していく。 ・地域コーディネーターを窓口とした学校支援ボランティアの活用を推進するとともに，各種地域協議会主催の事業の活性化を図る。 	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童 89.3 教職員 100 保護者 91.2 地域住民 93.3 ・教職員，保護者，地域住民が目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・読み聞かせボランティア，農園ボランティアなど地域やPTAと連携した取組を継続して実施する。</p> <p>・学校支援ボランティアの募集方法を工夫する。</p> <p>・地域協議会の意見を学校運営に生かす。</p>
<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は，利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ⇒教職員，保護者，地域住民 肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の安全点検や日頃の環境整備を通して危険箇所や要修繕箇所の発見と迅速な対応に取り組み，児童や保護者，施設利用者の安全確保に努める。 ・熱中症指数計を設置したり，気象庁からの情報をこまめに収集したりすることで，気象災害への迅速な対応を図る。また，気象災害の恐れがある場合はさくら連絡網を活用して保護者へ迅速に情報提供を行う。 ・各教育活動を通じた児童への安全指導や委員会活動，校内掲示により，施設の安全な利用について意識の高揚を図る。 ・各種たよりやホームページ，さくら連絡網等により，安全に関する情報を家庭や地域へ積極的に発信する。 	<p>B</p> <p>【達成状況】 教職員 100 保護者 85.7 地域住民 93.8 ・全て目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・毎月の安全点検や日頃の環境整備を通して危険箇所や要修繕箇所の発見と迅速な対応に取り組み，継続して安全確保に努める。</p> <p>・熱中症指数計を設置したり，情報をこまめに収集したりすることで，気象災害への迅速な対応を図る。また，気象災害の恐れがある場合はさくら連絡網を活用した保護者への情報提供や安全への啓発に努める。</p> <p>・ホームページやさくら連絡網などにより，防災に関する情報を家庭や地域へ発信する。</p>
<p>6- (2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から，授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 ⇒教職員 肯定的回答 95%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修等で教師のデジタル活用のスキルを磨くとともに，ICT支援員との連携を図りながら，1人1台端末を活用した授業実践のために必要なソフト環境等の整備に努める。 	<p>B</p> <p>【達成状況】 教職員 94.7 ・目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・校内研修等で教師のデジタル活用のスキルを磨くとともに，ICT支援員との連携を図る。</p> <p>・1人1台端末を活用した授業実践のために必要なソフト環境等の整備に努める。</p>

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	<p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童、教職員、保護者、地域住民 肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級単位や代表委員会などで「さわやかあいさつ運動」を実施し、学校園あいさつ運動を推進する。 ・日頃から、あいさつの意味や効果について声をかけ、気持ちのよいあいさつをした児童を認め励ましながら指導することで、児童の意識の高揚を図る。 ・各種たよりや学級懇談会、ホームページであいさつに関する取組を発信するとともに、道徳科の授業や「ひらきたレンジャーがんばりカード」を活用し、家庭や地域と協力した取組を推進する。 	<p>【達成状況】 児童 87.3 教職員 78.9 保護者 80.0 地域住民 87.5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童、地域住民が目標値を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級単位や代表委員会などであいさつ運動」を推進する。 ・日頃から、あいさつの意味や効果について声をかけ、気持ちのよいあいさつをした児童を認め励ましながら指導することで、児童の意識の高揚を図る。 ・各種たよりや懇談会、ホームページであいさつに関する取組を発信するとともに、道徳科の授業や「平北レンジャー」を活用し、家庭や地域と協力した取組を推進する。
	<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童、教職員、保護者、地域住民 肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ひらきたよ子の一日」を全職員で共通理解して指導するとともに、児童による毎月の振り返りを行い、きまりやマナーを守る態度を育成する。 ・帰りの会などで、生活目標の振り返りや友達のよい行いを認め合う場を設定する。 ・一斉下校の日には、下校時刻5分前になったら音楽を流など、時間を守ることへの意識や周りに対しての配慮を身に付ける手立てを講じる。 	<p>【達成状況】 児童 86.7 教職員 63.2 保護者 85.7 地域住民 92.9</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が目標値を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ひらきたよ子の一日」を全職員で共通理解して指導するとともに、定期的に児童による振り返りを行い、きまりやマナーを守る態度を育成する。 ・帰りの会などで、生活目標の振り返りや友達のよい行いを認め合う場を設定する。 ・道徳や学活の授業において、きまりの意義を考え、きまりを守ることについての意欲を高めたり自分自身を見つめたりする学習の充実を図る。
	<p>B3 児童は、いろいろな分野の本を読み、読書への関心を高めている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童、教職員、保護者 肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭でも読書に親しめる機会をもてるよう、家族と一緒に読める本を選ぶよう助言する。 ・『第3日曜日は家庭の日』に併せて、家読を推奨し、家庭での読書活動の機会を設ける。 ・学校図書館司書や委員会活動を中心に、読書に興味をもてるような本を紹介をするなどし、読書への関心を高める。 ・個人懇談期間などを活用し、保護者が図書室に立ち寄れるような機会や場を設定する。 	<p>【達成状況】 児童 74.7 教職員 89.5 保護者 53.9</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が目標値を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書だよりや図書室のクラスルームで学習進度に合わせた本の紹介をしたり電子図書の活用を促したりし、読書の幅を広げる。 ・家庭における読書を促進できるよう、図書だよりなどを活用して保護者へ協力を働きかける。 ・委員会活動等において、読書への関心を高めるイベントやアナウンスを行う。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【目指す児童の姿（評価項目：A1～9，B1～3）】

- ・ A1「主体的に学習に取り組む態度」、A3「目標に向かってあきらめずに、ねばり強く取り組む態度」、A5「自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとする態度」についての児童・教職員の肯定的回答率が目標値を上回った。今後も、児童が学び合いを通して考えを広げたり深めたりすることのできる学習や協力して課題解決に取り組む活動を工夫する。また、各教育活動において、目標を設定し振り返る活動や、児童の努力や成長を教師が「認め、励ます」支援を継続し、自己肯定感を高めながら次の挑戦への意欲をもてるようにする。
- ・ A2「思いやりの心」、A4「健康や安全に気を付けた生活」についての教職員の肯定的回答率が目標値を下回った。道徳の授業において、誰に対しても思いやりの心をもって接することや、自他の安全を守るために節度ある行動をすることの大切さについて考えさせるとともに、なかよし班活動や学校行事などにおける実践を通して学ぶことができるようにする。また、放課後の過ごし方や交通安全について、学級活動などによる発達の段階に応じた指導の充実を図る。
- ・ A6「英語を使ったコミュニケーション」の児童の肯定的回答率が目標値を下回った。ALTと連携し、授業における英語でのやりとりの機会を増やすとともに、英語に親しめる活動の充実を図っていく。
- ・ A8「持続可能な社会への関心」についての児童・教職員の肯定的回答率が目標値を下回った。持続可能な社会を実現するとはどのようなことであるか、各教科や特別活動等の機会を通して具体的に理解できるよう工夫する。また、活動を通して児童自身が持続可能な社会の作り手であることを自覚できるようにする。
- ・ B1「時と場に応じたあいさつ」、B2「きまりやマナーを守った生活」についての教職員・保護者・地域住民の肯定的回答率が目標値を下回った。日常的に教師から児童に対して進んであいさつをしたり、きまりやマナーが守れている行動を価値づける言葉かけをしたりするとともに、平北レンジャーを生かした自治的な活動の充実を図る。また、道徳の授業等においてあいさつ、きまりがなぜ大切なのかについて考えられるよう指導を工夫する。
- ・ A8「デジタル機器や図書等の学習への活用」、B3「読書への関心」についての児童・保護者の肯定的回答率が目標値を下回った。授業中の課題解決や話し合いにおいてデジタル機器を活用する活動を積極的に設定するとともに、読書に親しむ機会を工夫したり意図的に多様な図書を紹介したりし、児童がより多く、幅広い分野の読書ができるようにする。また、家庭での読書量を増やせるよう、親子で読書に親しめるような企画や保護者への啓発を工夫する。

【目指す学校の姿（評価項目：A10～20）】

- ・ A18「家庭・地域・企業等と連携・協力した教育活動や学校運営の充実」についての教職員・保護者・地域住民の肯定的回答率が目標値を上回った。今後も学校の教育活動をHPや各種たより等で発信し、家庭や地域の理解と協力を得られるようにするとともに、地域協議会における学校運営の充実に向けた話し合いを行っていく。また、企業による出前授業や学校支援ボランティア等の協力により児童の学びの充実を図るため、連携を密にしていく。
- ・ A19「利用する人の安全に配慮した環境づくり」についての教職員・保護者・地域住民の肯定的回答が目標値を上回った。今後も、定期的な安全点検や保護者や地域住民からの情報を生かし、安心・安全な学校づくりに努めていく。
- ・ A11「いじめが許されない行為であることの指導」、A12「不登校を生まない学級経営」、A13「一人一人が大切にされ、活気があり、明るく生き生きとした雰囲気」、A14「分かる授業やきめ細かな指導」についての保護者の肯定的回答率が目標値を下回った。道徳の授業やいじめゼロ集会をはじめ、全教育活動を通して「いじめを許さない」ことを指導するとともに、学級活動などにおいて、級友のよさを認め合い、互いに大切する態度を育むことをねらいとした活動を工夫する。また、個に応じた指導や授業改善に取り組み「分かる・楽しい」授業を学校全体で目指す。

7 学校関係者評価

- ・ 日頃の授業等の様子から、教職員が児童の状況をきめ細かく見取り、工夫して指導を行っていることを認識している。
- ・ 教職員、保護者、地域住民の結果に共通して課題が見られた項目については、三者で意見交換をし、課題や解決の方策について相互理解を図ることが、課題解決につながるものと考えている。評価結果の分析を基に追跡調査をした上で、対象者による認識の違いがあれば、相互の共通理解を図ることが大切である。
- ・ B2「きまりやマナーを守った生活」など、児童と教職員の評価が大きく異なっている項目については、評価の前提となる視点や意識に違いがあることが要因であり、その違いを明らかにしておくことが大切である。
- ・ 児童の意見を聞くことも大切にしたい。地域行事の機会、学校と地域が連携した行事の際を活用するなどして、地域住民が子供と直接話す機会を確保していけるとよい。
- ・ A11「いじめが許されない行為であることの指導」、A12「不登校を生まない学級経営」について、いじめ等対策委員会やケース会議の実施状況について、保護者へ発信することも大切ではないか。
- ・ A8「デジタル機器や図書等の学習への活用」、B3「読書への関心」について、デジタル化が進む中であるが、児童が本に出会い、触れる機会が増えることを願っている。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 児童一人一人のよさや努力を見取り、「認め・励ます」指導を継続して行うとともに、授業や学校行事において児童が目標を立てたり自らの成長を振り返ったりする活動を設定することで、児童の自己肯定感を高め、自らの成長に向けて主体的に取り組むことができるよう支援していく。
- 「自分の考えをもち、ともに学び合う児童の育成」に向け、対話的活動や自分の考えを記述する活動などを取り入れ、学習指導の充実を図る。また、授業におけるデジタルや図書等の活用を工夫する。
 - ・安全教育・健康教育の充実を図り、児童の安全・健康に対する意識の高揚を図る。また、地域や家庭と連携し、児童の安全確保や健康の保持・増進を図る。
 - ・道徳の授業において、誰に対しても思いやりの気持ちをもって接することや相手の立場を尊重することの大切さについて考える学習を行うとともに、なかよし班活動や学校行事における実践を通して態度を育むことができるよう支援する。
 - ・学校全体でいじめや不登校を生まない指導・支援に努めるとともに、問題解決に組織的に取り組むことができる体制の充実を図る。
 - ・教師が進んであいさつをしたり、あいさつの意義について指導をしたりするとともに、家庭や地域の方々にも協力を依頼し、時と場に応じたあいさつができる態度の育成を図る。
 - ・学校行事をはじめ、各教育活動の実施後に教職員が行っている振り返りを生かして実施方法を工夫することにより、教育的効果の充実や、準備等の効率化を図ることができるようにする。
 - ・学校、家庭、地域が連携して児童を育むため、学級懇談や地域協議会等において児童の状況について話し合う機会を設定したり、各種たよりを活用して学校の取組を紹介したりするなどし、目指す児童の姿や指導・支援の方向性について共通理解を図れるようにする。